

# 南佐渡森林組合

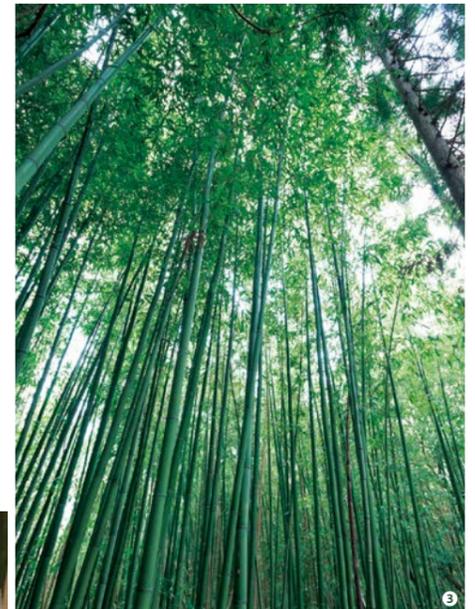
【佐渡市】



① 菊池さんが手にしているのは2メートルの一本梯子。現場によっては2本つなぎ合わせて4メートルの一本梯子と使い分ける ② この日は二人で枝落としを行った。危険を伴う傾斜地なので上下作業・接近作業は禁止



チェーンソーで伐ると木に傷が付く恐れがあるので手ノコを使って枝落としを行う。森林技術員の菊池さん。2メートルの一本梯子なので鋼網は着用していない



③ 赤泊の竹加工所付近の美しい竹林。かつては佐渡の主要産業だった竹を見直したい ④ 組合の試作品「親子で作る竹3点セット」。自然な緑色が魅力の竹は、座ったときの柔らかい感触も好まれる ⑤ 竹の移植ゴテは平成26年に新潟県で開催される「第65回植樹祭」で配布される ⑥ 赤泊工場竹加工所にて、慣れた手つきで移植ゴテを作る小田輝美さん

## 森林整備とともに進めたい 佐渡の竹を生かした新しい林業

訪れたのは佐渡市羽茂大橋の枝落とし作業現場。木の枝が伸びて周囲の枝と重なり、木の成長を妨げる。余計な枝を付け根から伐る作業は木の成長が止まる冬に行われている。急斜面で足場も悪い中、若い森林技術員が一本梯子に登り、手ノコで丁寧に枝を伐っていた。平成14年に南部地区の三つの組合が合併した南佐渡森林組合の主な業務は、間伐を含めた森林整備。製材工場も二つ持っているが、昔から上質な竹の産地で知られる赤泊地区では、昭和61年に竹の加工工場を開設し、自生する竹ですだれや竹垣などの竹製品を生産してきた。当時は竹製品や竹材は内地からも高い需要があった。現在は竹製品の開発による竹の利用拡大と荒廃が進む竹林の整備推進が課題。季節風が強く、風による被害が少ないこの地域では、ますます木が育つ。材は島内で消費されるが、もっと広く良材をアピールするため佐渡市では平成20年に佐渡杉ブランドを施行。組合でも南部地区の竹を使った製品提案で、佐渡の林業活性化に取り組んでいく。

# 緑の担い手

大自然の中で、プロ意識を持って働く人たちが



菊池 一広さん

年齢:29歳 林業経験:10年

Kikuchi Kazuhiro

## 学んだやり方をさらに工夫

手を使った分だけ森はきれいになります。小さな苗から世話をしていた木が大きくなると自分が世話してきたんだなとうれしく思います。10年やってきたけど難しい仕事です。まだ自信はありません。いつも思ったような結果を出せれば良いですが、そのためには工夫が必要です。現場で学んだやり方に自分なりの考えを取り入れるなど、考え方を広げていくのも面白いです。



信田 裕也さん

年齢:25歳 林業経験:5年

Shida Yuya

## 見本にしたい先輩たち

最初はアルバイトから入って、皆さんに仕事を教わりながらやってきました。魅力は親方の人柄でしょうね。個人的で面白く、仕事以外にも見本にしたい先輩たちに恵まれている、良い職場だと思います。今日の枝打ち作業のように、下の方から枝の付け根を伐る作業を進めていくと最後はきれいな木になります。仕事の成果が目に見えるのは、とても気持ちが良いです。



① 松くい虫被害木の伐倒作業中。木の重心が左にあるので、右側に集積するためにはロープで木を右側に引っ張り、伐倒方向を変える必要がある ② 左から森林技術員の中川友樹さんと渡辺勝芳さん ③ 伐倒した被害木は1メートルの長さでそろえて玉切りして集積、くん蒸する ④ 松くい虫被害を受けた木にはカミキリムシの幼虫が潜んでいる。伐倒・駆除を行うことで翌年の被害発生を防ぐ



### 【事業体Data】



### 南佐渡森林組合

住所/佐渡市羽茂本郷1921-1 電話/0259-88-2017  
 設立/平成14年(合併) 資本金/5,400万円  
 従業員数/20人(森林部門10人)  
 勤務時間/8:00~17:00 主な勤務地/佐渡市(羽茂地区、赤泊地区)  
 主な従事業務内容/森林整備、原木販売、製材加工、竹加工

### 【事業主コメント】

当組合は、現在、部門間協力による少数精鋭の人材配置と再度見直しによる経費削減を進めています。現場に関しても効率の良い仕事をすることで経費削減になります。一人一人の工夫が良い結果を生み出します。今、危惧しているのは繁茂すぎた竹林の荒廃化。周囲の景観のマイナスイメージにつながるので、手入れを推進したいと思います。



南佐渡森林組合  
代表理事組合長 大場 文夫